足羽川ダム建設事業の検証に係る検討
報告書（素案）
に対する関係住民の意見聴取
【意見発表者の意見要旨】

「足羽川ダム建設事業の検証に係る検討報告書(素案)」に対する関係住民の意見聴取

日　　時：　平成 24 年 2 月 18 日(土) 9:30～10:24
場　　所：　坂井地域交流センター「いねす」　交流ホール
発 言 者：　意見発表者(坂井市会場１番)

発言要旨：　私は福井市に生まれて、戦前には足羽川で水泳をした。その当時プールがあったのは、福井工専の 25m プールだけで、花月橋、板垣橋、そういったところの橋脚から飛び込むというのが、戦前の昭和 18 年ごろの水泳の状況だった。また、兄が中学生の頃には、中角の近くで泳いだ経験がある。

戦前はそういった状況で、農薬の問題や水難事故もあり、昭和 40 年頃にはプールを造らないといけないということになった。そんなことを考えると、旧足羽町に湧水を利用して、一つプールを造ったらいかがか。また、場合によっては、福井市内の九十九橋から桜橋の辺りまで上流からパイプできれいな水を引き、プールを造ったらどうかと思う。

堤防のかさ上げについて、私が小学校のときは福井では１m 以内のかさ上げで済んでいたが、今、坂井市の三国町の護岸は、自家用車で行っても川が全然見えない。むしろかさ上げよりも河床を掘るほうがいいのではないかと考えている。殺風景なコンクリートの壁ではなく、九頭竜川や足羽川が見えるようなかさ上げをして欲しい。

以　上

「足羽川ダム建設事業の検証に係る検討報告書(素案)」に対する関係住民の意見聴取

日　　時：　平成 24 年 2 月 18 日(土) 9:30～10:24
場　　所：　坂井地域交流センター「いねす」　交流ホール
発 言 者：　意見発表者（坂井市会場 2 番）

発言要旨：　洪水調節専用ダムであっても、河川の流れを何か利用することができないか。例えば、用水路でも発電できる話もあるので、水を調節するようなダムが出来るなら、その下流にでも、小水力発電の機能が備えられるように考えられないか。

以　上

「足羽川ダム建設事業の検証に係る検討報告書(素案)」に対する関係住民の意見聴取

日　　時：　平成 24 年 2 月 19 日(日) 14:00～14:52
場　　所：　池田町　能楽の里文化交流会館　会議室
発 言 者：　意見発表者(池田町会場 1 番)

発言要旨：　ダムの評価報告云々については、極めて技術的なことであるので、私のようなそういうものに疎い人間がとやかく申し上げることはないが、大変よく検討された案だと、ある意味で感心をしている。

足羽川ダムは、平成 11 年度に美山町からこちらの池田町の方に変わってから十数年を経過しているが、その間に一番頭を悩まし、また今現在も悩ませている問題は、地域振興策である。このダムの話が出て 45 年を経過しようといるが、この間、当初と違って今一番大きな問題を抱えているというのは、全国どこも同じであろうが、いわゆる老齢化、高齢化である。そしてなおかつ、その高齢化がある程度進んだ後にやってくるのが、人口減という問題である。

もし、このダム案が通るということになると、旧来、旧下池田地区として一つのコミュニティを作ってきた地域が、松ヶ谷、白粟という 2 つの集落に減ってしまう。この残った 2 つの地域のコミュニティをどのように維持していくかということが一番悩ましいところであり、先例地を幾つか今日まで見てきたが、なかなかこれが出来ていないという感じを受けたのが現実である。

特に感じたことは、いろいろダムの、水特法等々によっていろいろなものを造っているが、人口の減とそれをメンテナンスする対策が出来ていないために、折角いいものが出来たとしても私たちの 2 つの集落も、これからの高齢化を迎えてくるこの地域を、どのような形で 20 年後、30 年後の批判に耐えられるような地域に仕上げていくかというところが、一番頭が痛いところである。

今回、検討報告書(素案)に記載された予算等々を見ても、そういう予算は特に付いていない。これは後ほどまた各省庁あるいは県、市町村等々の自治体で検討されて予算付けがされていくことになるのではないかというようなことであり、したがって、この新しい時代を迎えるに当たっての地域のあり方というものが、どうしたらいいのかという良い知恵がわいてこない。

そういう意味から言うと、ダムを造るという一つの起業者である国土交通省も、しかるべき時代に相応した何かの知恵あるいは対案、対案というか素案、そういうものがあっていいのではないかということを強く感じている。我々は我々で一生懸命考えているが、苦慮している。従来の縦割り行政の流れに沿ったままの対応に委ね、我々の生活という部分が置き去りにされてるのではないか。

例えば、卑近な例を１つ挙げると、今回東北の大地震があり、やっと１年を経て今回復興庁というものが出来た。これは横断的な組織だと思うが、ダムによって出ていく人、それから残る人、これらは全部生活を奪われ、そして再建をしていくわけであるので、個人ベースでは大なり小なり大震災と同じような形である

というふうに考えていいのではないか。それを通常の行政のベースの中に残したまま、後はあなたたちで考えなさいと、県なり町なりと相談してやりなさいという姿勢、必要なお金は少しは出しましょうと、こういう姿勢が果たしてこれからの時代に相応しいのかということを私は強く懸念している。

従って、コストを安く仕上げるというのは非常に大事であるが、ソフトの部分においてもう少し今後、力を注いで地域振興策、あるいは地域振興策というよりも地域衰退防止策というものがあってしかるべきだというふうに強く感じている。

以　上

「足羽川ダム建設事業の検証に係る検討報告書(素案)」に対する関係住民の意見聴取

日　　時：　平成 24 年 2 月 19 日(日) 14:00～14:52
場　　所：　池田町　能楽の里文化交流会館　会議室
発 言 者：　意見発表者(池田町会場 2 番)

発言要旨：　早く結論を出して欲しい。ダムの話があってから 45 年間という長い期間が経っている。その間に、ダム審議委員会、流域委員会と長年議論をして、現在のダム計画になってきた。ダム審議委員会で大体４年、それから流域委員会を 33 回開催し、これも大体４年もかかっている。これほど長い間結論が出ない事業というものはない。

この 45 年間の間、池田町及び水没関係地元住民は、ダムに協力の要請を再三受けてきた。地元からダムを造ってくださいということは一回も言っていない。要請を受けて、苦渋の決断でダムを受け入れる判断をした。その段階で将来の生活設計の準備にとりかかったところである。今回の検証で、またそれが第一歩が振り出しに戻った。余りにも長い時間がかかり過ぎてると思う。水没対象の住民の方々は、自分の住み場所がまだ決まらない、決められないということ。これは将来の生活設計の見通しが立たないということであり、我々、家がどこになるかということがはっきりしないと生きていけない。

また、老齢化も進んでいる。今年に入ってから何人かの方が亡くなった。そういう意味で、もう時間がない。もうこれ以上、やる・やらないで地元を苦しめないで欲しい。検証の案を見ると、今まで流域委員会やダム審議会である程度検討した案がかなり入っている。そういう中で、近畿地方整備局は現在のダム計画案が最も有力と判断した。ある意味ではこれは当然の結果だと思う。これだけ長い間検討してきたわけであり、この対応方針を早く最終決定して、前へ進めていっていただきたい。

以　上

「足羽川ダム建設事業の検証に係る検討報告書(素案)」に対する関係住民の意見聴取

日　　時：　平成 24 年 2 月 20 日(月) 18:30～19:15
場　　所：　福井県国際交流会館　1-2 会議室
発 言 者：　意見発表者(福井市会場 1 番)

発言要旨：　足羽川ダム計画が打ち出されてからもう 45 年。そして、それが一度白紙になり、その後、部子川にダムの代替案が発表されてからもう既に 13 年になる。この間に、土地、物件その他の調査まで全部済み、いよいよ生活再建の話に入ろうとした矢先、政権交代によってダムの見直し、そして凍結、そして今、検証ということになって、現在に至っている。

この 2 年半に、50 戸足らずの我々の地区で 12 名の方が亡くなり、そのうちの 9 名は世帯主である。もしダム事業の継続との判断を下されたなら、一日も早く事業を進めていただきたいと思う。我々の地区の住民は高齢者ばかりで、時をじっくり待っている余裕はない。一日も早く生活再建の基盤をどこにするか決めなければならない。いまだにそのことが宙ぶらりんである。我々は決してダムを望んでいたのではない。福井市、坂井市、ひいては福井県のために苦渋の決断を強いられ、その後やむなく受け入れたものである。このことを福井市の方々に理解していただきたいと思い、今日、意見とさせていただいた。

以　上